

瀬戸焼千年の歩み

—その絶え間ない進歩—



パーティーの前
丸山陶器株式会社
昭和35年(1960) / 高さ39.7cm(男)



軸下彩花鳥園花瓶
二代加藤生友衛門
19世紀後期 / 高さ92.0cm
個人蔵



重要有形民俗文化財 磁瑠璃胎圓形蓋付壺
三代川本治兵衛
19世紀前期 / 高さ19.6cm



ルース製鐵文手箱
19世紀前期 / 高さ27.9cm



鉄胎仏花瓶
伝 百目常出土
14世紀前期 / 高さ28.7cm



重要有形民俗文化財 鉄輪脚手付瓶
伝 久手F窯出土
11世紀中期 / 高さ26.2cm

会 期 2017年4月15日(土)～5月28日(日)
開 館 時 間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)、初日は午前10時開館
休 館 日 5月9日(火)
入 館 料 大人:500円(400円) 高大生:300円(240円)※20名以上の団体は()内の入館料
※中学生以下、妊婦、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は無料。
※同時開催「第2回瀬戸・藤四郎トリエンナーレグランプリ受賞者展「加藤秀樹展」」もご覧いただけます。
主 催 大せともの祭協賛会/せとものフェスタ2017実行委員会/瀬戸市美術館/
公益財団法人瀬戸市文化振興財団
助 成 公益財団法人せとしん地域振興協力基金

第1章 瀬戸焼の始まり



灰釉菊印花文四耳壺
13世紀末期～14世紀初期/高さ27.9cm



入子
針原2号窯出土
14世紀前期/幅(最大)9.6cm

第2章 多様化する技術・表現



折縁鉄絵鉢
飯 穴田窯出土
寛永12年(1635)/幅28.0cm



染付鳳凰文平鉢
19世紀中期/幅41.6cm

第3章 躍進する陶都



上絵金彩菊垣雀園大花瓶
初代川本樹吉
19世紀後期/高さ75.2cm



花文花瓶
長江明治
昭和3～10年(1928～1935)/幅23.4cm

瀬戸焼千年の歩み —その絶え間ない進歩—

愛知県瀬戸市は、名古屋市の北東約20kmに位置するやきものの産地です。今から約千年前に瀬戸焼の生産が始まり、それ以降絶えることなく現在まで続いています。このような産地は世界的にも瀬戸だけだといえます。

瀬戸は長い歴史のなかで時代の変遷と生活様式の変化に合わせ、各時代に合う多種多様なやきものを世に送り出してきました。そして、日常的に使われていくなかで、「せともの」という言葉は日本のやきものの代名詞となりました。先人たちの努力や高い技術力によって「瀬戸では作ることができないものはない」といわれるほどでした。

瀬戸市域でのやきもの作りは平安時代後期の「灰釉陶器」に始まります。

安土・桃山時代に「黄瀬戸」「志野」といった技術・デザインともに新しいやきものを開発し、さらに江戸時代には本格的に磁器の生産も開始します。瀬戸は常に新しい技術を探求し、やきものの表現の幅を広げていきました。

明治時代においては欧米での万国博覧会の出品を契機に瀬戸のやきものが多く輸出されます。また、大正時代に入ると職人・陶工から作家へと意識改革が起き、陶芸分野が成立します。そして現代においては工業製品のパーツを生産するなど、新たな瀬戸の歴史を作り出しています。

本展では平安時代末期から現代までの名品を中心に、3章に分けて紹介します。瀬戸焼の歴史の厚み、そして柔軟に変化を遂げる多様性をご覧ください。

【関連企画】

●講演会「瀬戸はいかにして 千年の陶都となりえたか」

講師：瀬戸市美術館館長 服部文孝
日時：5月3日(水・祝)午後1時30分～午後3時
場所：瀬戸市文化センター文化交流館22会議室
定員：80名(定員を超えた場合は入場をお断りすることもあります)
※事前申し込み不要、参加費無料

●ギャラリートーク(学芸員による作品解説)

日時：4月22日(土)、5月20日(土)
両日ともに午後1時30分～
場所：美術館展示室
※事前申し込み不要、要入館料

【近隣施設情報】

- 愛知県陶磁美術館 TEL 0561-84-7474
企画展「瓦万華鏡～社会、地域、心をつなぐ～」
4月15日(土)～6月25日(日)
- 瀬戸蔵ミュージアム TEL 0561-97-1190
企画展「陶磁器図案家 馬淵利貞-昭和初期の産業デザイン-」
2月4日(土)～5月7日(日)
「新出土品展」
5月13日(土)～7月23日(日)
- 瀬戸市新世紀工芸館 TEL 0561-97-1001
企画展「加倉井秀昭 木越あい」
4月1日(土)～6月18日(日)
- 瀬戸染付工芸館 TEL 0561-89-6001
企画展「飯碗・茶碗-瀬戸染付を中心に-」
4月1日(土)～6月26日(月)

【同時開催】

●せとものフェスタ2017・瀬戸市美術館特別展 第2回瀬戸・藤四郎トリエンナーレグランプリ受賞者展「加藤秀樹展」

瀬戸・藤四郎トリエンナーレは、瀬戸の優れた粘土を知っていただき、新たな陶芸文化の創造と伝統技術の継承を目的として、3年に一度開催しています。今回は第2回展においてグランプリ(藤四郎賞)を受賞した加藤秀樹氏の作品を約10点展示します。

表面「釉下彩花鳥図花瓶」以外の作品は全て瀬戸蔵ミュージアム所蔵



瀬戸市美術館

Seto City Art Museum

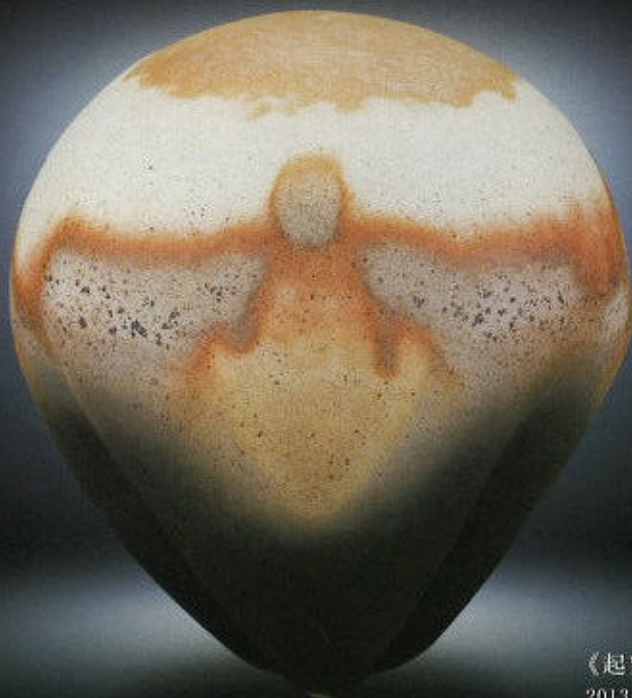
〒489-0884 愛知県瀬戸市西沢町113-3
TEL 0561-84-1093 / FAX 0561-85-0415
E-mail art@city.seto.lg.jp
URL <http://www.seto-cul.jp/>

- 名古屋駅から(所要時間約1時間)
地下鉄東山線(「栄」)へ、名鉄瀬戸線に乗り換え(「栄」)から[尾張瀬戸]下車、徒歩13分。
- 名古屋I.C. 長久手I.C.から(所要時間約30分)
東名高速道路(名古屋I.C.、長久手I.C.16時以降は瀬戸方面へ、
グリーンロード(愛知県球磨公園)、北山I.C.まで行き、左折(北山)瀬戸市街地へ。
- せと赤津I.C.から(所要時間約10分)
東海環状自動車道「せと赤津I.C.」を降りて瀬戸方面へ。

加藤 秀樹 展



《あうん》
2016年
H57×W96×D44 (cm)



《起望》
2013年
H58×W54×D54 (cm)

会 期 平成29年4月15日(土)～5月28日(日)

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)、初日は午前10時開館

休館日 5月9日(火)

入館料 大人…500円(400円)20名以上の団体 高大生…300円(240円)20名以上の団体

※中学生以下、妊婦、65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方は無料

※同時開催「瀬戸博千年の歩み」その絶え間ない進歩」にもご覧いただけます。

主 催 大せともの祭協賛会、せとものフェスタ2017実行委員会、瀬戸市美術館、公益財団法人瀬戸市文化振興財団

助 成 公益財団法人せとしん地域振興協力基金

加藤 秀樹 展

- 1970年 三重県四日市市生まれ
- 1993年 愛知県立芸術大学美術学部彫刻専攻 卒業
- 2005年 社会福祉法人 青山里会(才山工芸村・陶工房)にて創作を始める
- 2006年 陶会議6
(三重県立美術館・県民ギャラリー、三重県津市)
- 2007年 二人展(空間舎「創」、大阪府大阪市)
- 2008年 いなべ市の工房にて創作・陶芸創作スペースを開放
- 2009年 みえ県展 工芸部門 岡田文化財団賞
- 2011年 日本陶芸展 自由造形部門 入選
みえ県展 工芸部門 入選
- 2013年 日本陶芸展 自由造形部門 入選
第1回瀬戸・藤四郎トリエンナーレ 審査員特別賞
- 2014年 魂塊展(小山田美術館、三重県四日市市)
- 2016年 第2回瀬戸・藤四郎トリエンナーレ グランプリ(藤四郎賞)
- 2016年 加藤秀樹展(小山田美術館、三重県四日市市)



《独楽》 2016年 H58×W43×D45(cm)



《交》 2007年 H62×W51×D52(cm)



《魂胆》 2011年 H38×W78×D46(cm)



《あうん》 2013年 H45×W92×D63(cm)

瀬戸・藤四郎トリエンナーレは、陶都・瀬戸にて多くの陶芸家たちに、瀬戸の優れた粘土を改めて知っていただき、新たな陶芸文化の創造と伝統技術の継承を目的として3年に一度開催しています。第1回展では117名の出品者の中から70名の入選者、5名の入賞者が選ばれ、第2回展では141名の出品者の中から69名の入選者、5名の入賞者が選ばれました。



第1回瀬戸・藤四郎トリエンナーレ採土風景

「自ら瀬戸の原土を採集し」、「自ら採集した土で粘土をつくり」、「自らその粘土で制作する」という応募規定のもと、第2回展においてグランプリ(藤四郎賞)を受賞した加藤秀樹氏の《あうん》は、「原土や原土から精製された新たな素材を実に上手く自身の制作の中に取り込んでいた。新たな素材を自身の造形に活かしたいという想いの強さが、より勝っていた。」、「作り手が向き合った一般的な解答のない問いの痕跡が蓄積されている。」など、審査員から高い評価を受けました。

本展では、第2回展でグランプリを受賞した作品及び、第1回展で審査員特別賞を受賞した作品と共に、これまで取り組んできた焼締の作品約10点を展示します。今後の現代陶芸を代表する作家の一人として更なる飛躍が期待される加藤氏の作品をどうぞご堪能ください。

□同時開催

せとものフェスタ2017・瀬戸市美術館特別展
「瀬戸焼千年の歩み —その絶え間ない進歩—」
平成29年4月15日(土)～5月28日(日)
平安末期から現代までの瀬戸焼の名品を中心にして時代を追って展示します。

□近隣施設情報

愛知県陶磁美術館 TEL 0561-84-7474
企画展「瓦万華鏡～社会、地域、心をつなぐ～」
平成29年4月15日(土)～6月25日(日)

瀬戸蔵ミュージアム TEL 0561-97-1190

企画展「陶磁器図案家 馬淵利貞-昭和初期の産業デザイナー-」
平成29年2月4日(土)～5月7日(日)

企画展「新出土品展」
平成29年5月13日(土)～7月23日(日)

瀬戸市新世紀工芸館 TEL 0561-97-1001
企画展「加倉井秀昭 木越あい」
平成29年4月1日(土)～6月18日(日)

瀬戸染付工芸館 TEL 0561-89-6001
企画展「飯碗・茶碗-瀬戸染付を中心に-」
平成29年4月1日(土)～6月26日(月)



瀬戸市美術館

Seto City Art Museum
〒489-0884 愛知県瀬戸市西沢町113-3
TEL 0561-84-1093 FAX 0561-85-0415
E-mail art@city.seto.lg.jp
URL http://www.seto-cul.jp/

- 名古屋駅から(所要時間約1時間)
地下鉄東山線で「栗」へ。
名鉄瀬戸線に乗り換え「栗町」から「尾張瀬戸」下車、徒歩13分。
- 名古屋I.C. 長久手I.C.から(所要時間約30分)
東名高速道路「名古屋I.C.」「長久手I.C.」を降りて瀬戸方面へ。
グリーンロード「愛・地球博記念公園」、または「八草I.C.」まで行き、
左折(北)し、瀬戸市街地へ。
- せと赤津I.C.から(所要時間約10分)
東海環状自動車道「せと赤津I.C.」を降りて瀬戸方面へ。